

頑張る

農業法人

宇治市笠取地域で1999年に、住民の総意で設立した「(有)笠取ファーム」。地域に設置された宇治市総合野外活動センター「アクトパル宇治」の施設の維持管理や、食堂、売店経営を受託し、観光、体験農業などにも取り組み、地域振興の要となっている。

笠取地域は市の東北部に位置し、京都市と大津市に接する自然豊かな農山村。標高350mの笠取山を挟み、西笠取と東笠取の両地区に大別される。戦後の一時期には1200人以上いた住民も、現在は約60世帯、200人と減少し、農家も近隣の市街地に勤める兼業が多い。

そうした地域も、高速道路、京滋バイパスが88

年に開通し、近くにインターチェンジも設置されたことから一変した。

地域活性化を目指し、同年に農家が笠取観光農業推進会を結成。休耕地を活用して芋掘りや野菜収穫など、都市住民の農業体験イベントに取り組み、多くの人たちが訪れるようになり、さらに貸農園も開始した。

99年に市が「ふるさと創生事業」として大規模な教育施設「アクトパル宇治」を建設。これを地域の雇用と活性化のシンボルにしようと、施設の管理運営を担う認定要件である法人として笠取ファームを立ち上げた。

現在、久世谷幸男代表取締役(70)、北村敬三専務取締役(77)ら役員7人と従業員16人で経営

宇治市

笠取ファーム

「アクトパル宇治」で、運営に励む笠取ファームのメンバー(前列中央が久世谷代表取締役、その左が北村専務)



農業と観光を一体化

公設野外活動施設の運営受託

施設とのセットとなって人気を呼び、山間の農地保全にも貢献している。今後、ハウスで「みず菜」などの京野菜収穫体験も予定し、年間通しての交流も目指す。

来場者はオープン直後から年間6万人と好調。さらに2003年の京滋バイパス全面開通もあり、来場者は現在10万人になり、リピーター(再来訪者)も多い。

同施設の食堂では地元産食材を使ったメニューを提供。年間通して魅力的な運営を展開し、小集落での地域振興のすそ野拡大の役割を担っている。久世谷代表は「少子化

の中で、施設を核にして農地保全や地域振興につながっている。うれしいことに若い定住者も出てきているので、さらに運営に頑張りたい」と意気込んでいます。

▽法人の所在地 宇治市西笠取辻出川西1番地 電話 075(575)3520

している。

「アクトパル宇治」には、キャンプ場や天体観測室、宿泊棟などがあり、この中で笠取ファーム

は、第三セクターの公益法人と連携し、施設の維持管理、食堂、売店、観光、体験農業の4事業を受け持っている。四季を近隣に設けた貸農園も同

通して府内外から小・中高校生やグループが多く訪れる。

この他、体験農園や、